

10 階段の配筋

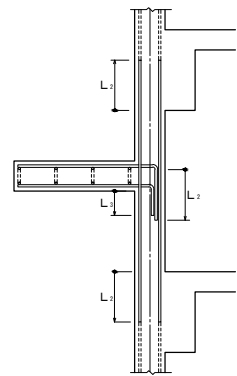
10.1 片持スラブ形階段の基準配筋

(a) 片持スラブ形階段の基準配筋は、表10.1及び図10.1により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

表10.1 片持スラブ形階段の基準配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		

(参-表6.1)



- (注) 1. 片持スラブ形階段を受ける壁配筋は、8.1(b)による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
3. スラブ配筋の継手及び定着の長さは、表3.3の L とする。

図10.1 片持スラブ形階段配筋の定着

(参-図6.1)

10.2 二辺固定スラブ形階段の基準配筋

(a) 二辺固定スラブ形階段の基準配筋は、表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

表10.2 二辺固定スラブ形基準配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)
KB1	D13-200#
KB2	D13-150#
KB3	D13-100#
KB4	D13, D16-150#
KB5	D16-150#
KB6	D16-125#
KB7	D16-100#

(参-表6.2)

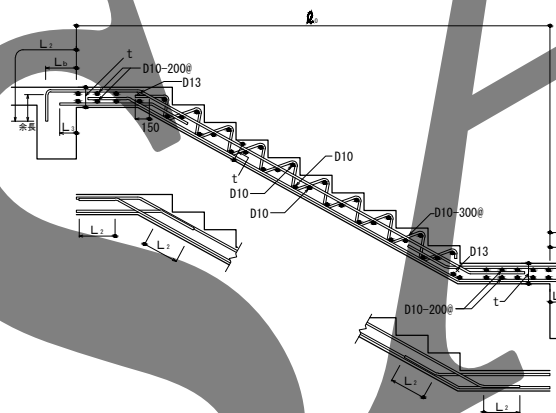
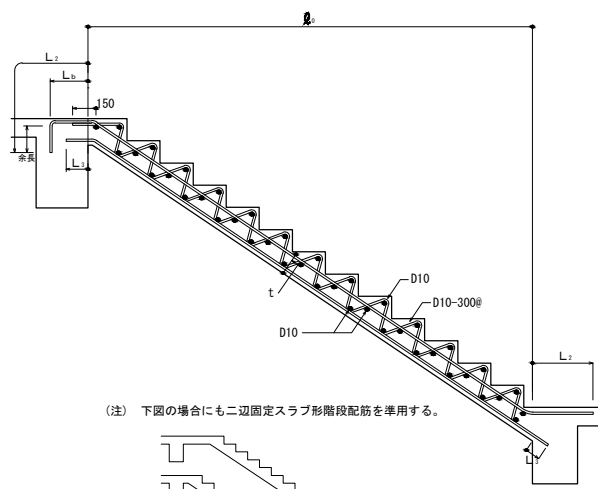


図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)

(参-図6.2)



(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

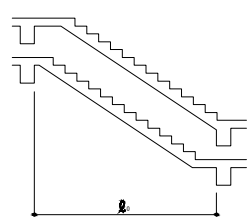


図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

(参-図6.3)

11 梁貫通孔及びその他の配筋

11.1 梁貫通孔の配筋

- (a) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。
(b) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
(c) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい)の範囲には設けてはならない。
(d) 孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
(e) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
(f) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
(g) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
(h) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のもの(軽微な開口)で鉄筋を緩やかに曲げるにより開口部を避けて配筋できる場合において構造図に特記されたものは、補強を省略することができる。
(i) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
(j) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
(k) 溶接金網の割付け始点は、横筋であばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

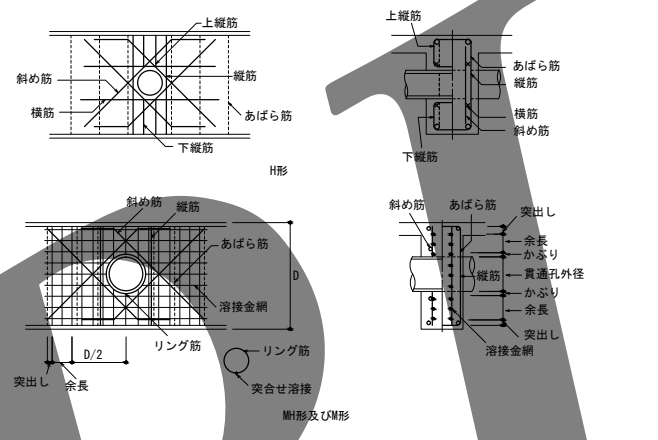


図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

(参-図7.1)

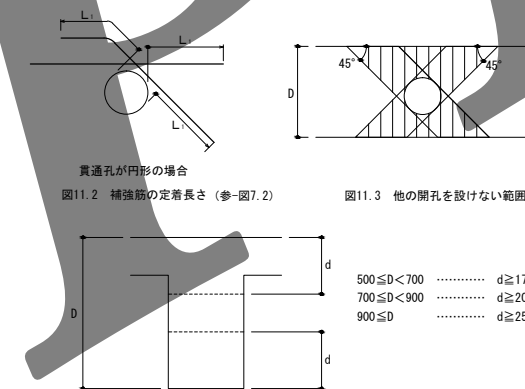


図11.2 補強筋の定着長さ(参-図7.2)

図11.3 他の開口を設けない範囲

$500 \leq D < 700$	$d \geq 175$
$700 \leq D < 900$	$d \geq 200$
$900 \leq D$	$d \geq 250$

図11.4 孔の上下方向の位置の限度

11.2 梁貫通孔の補強形式

(a) 梁貫通孔の補強形式は表11.1~表11.3により、配筋種別は構造図による。

表11.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

(注) は、一般部分のあばら筋を示す。

(参-表7.1)

表11.2 M形配筋 (参-表7.2)

配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13		
M3	4-2-D13	2-6φ-100#	
M4	6-2-D13		

(注) は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.3 M形配筋 (参-表7.3)

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100#	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100#	
MH6	4-2-D16			
MH7	4-2-D19			

(注) は、一般部分のあばら筋を示す。

11.3 コンクリートブロック横壁との取合い

(a) 控壁の配筋は、図11.5とし、控壁の配置は意匠図による。

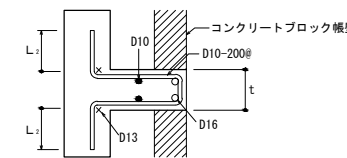


図11.5 控壁の配筋(水平、垂直とも)

(参-図7.3)

(b) 横壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.6による。

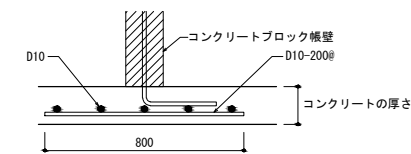


図11.6 壁付き土間コンクリートの補強配筋

(参-図7.4)